

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室		公表日		令和7年 2月 17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点（工夫していく点）	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	6	室内活動と戸外活動など、活動内容を分けたり、創作活動など人数を分けたりして工夫している。	利用定員10名であるが、利用されるお子さまとそこに支援員も入るため、スペースが狭いと感じることがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	7	国の人員配置基準を満たすように人員配置を行っている。さらに利用人数によってプラスして人員配置を行っている。	日によって職員の人数にばらつきがあり、時に職員が少ないと感じる時がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	5	室内は段差などなく安全に配慮した構造になっている。不必要な物を置かず、整理整頓を心がけこどもが安全に過ごせるよう工夫している。	手すりなどは設置されておらず、バリアフリー化されていない。ワンフロアのため、こどもに分かりやすくするための工夫は必要である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	0	毎日、清掃・消毒を行い、清潔な空間を保てるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	3	静養室を日常的に使用しているため、クールダウンの時には相談室を使用するなど工夫はしている。	静養室はあるが日常的に使用しているため、クールダウンの部屋として使えていない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	5	話し合った内容は書面などで全職員に共有するようにしている。	広く職員が参画している、とは言えない状況。決まった職員での話し合いになっている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	4	改善していかなければいけない事を確認し、一つ一つ、できることから始めている。	保護者の方の意向などを把握する機会は設けているが、業務改善につなげることができていない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	4	ミーティングと決まった時間で話し合うのではなく、日常的に話をするようにし、解決しなければいけない問題・課題について共通認識を持てるようにしている。	職員間でのミーティングの時間が確保しにくい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	8	第三者による外部評価については検討中。	第三者による外部評価を行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	1	外部の研修に参加する機会を設けている。来年度からは法人内での研修について計画が進んでいる。	現在、法人内の研修ができていない。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	ホームページ上に支援プログラムを公表している。	支援プログラムの作成について、全職員での話し合いができていない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	0	丁寧にアセスメントを行い、寄り添うことができるようにできる限りのことをしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	児童発達支援管理責任者が職員に積極的に働きかけ、こどもの情報を収集し、全職員が共通理解を持てるようにしている。話し合いの場ではこどもの最善の利益を考慮している。	全職員で共通理解を持てているとは言えない状況。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	5	職員間で統一した支援を行えるように、その日どのような活動を行い、どのようなことに気をつけるのかなど話している。	職員一人一人は放課後等デイサービス計画に沿って支援を行おうとしているが、職員間で共有して統一した支援を行っていないこともある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	2	放課後等デイサービスガイドラインを確認し、放課後等デイサービス計画を作成するようにしている。支援内容は具体的なものになるようにしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	3	社員、パートともに話し合いを行い、活動プログラムを考えるようにしている。広くみんなの意見を取り入れるようにしている。	全職員で話し合いを行う場がない。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	広くみんなにアイデアを出してもらい、新しい事も取り入れている。「静」と「動」のバランスを考えた活動プログラムになるようにしている。	活動プログラムが固定されている部分はある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	1	活動内容を説明し、本人の意志を聞いたうえで参加してもらうようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	色々なツールを使い、支援内容や役割分担について伝えるようにしている。	打ち合わせについて「必ず」はできていない。できている時とできていない時がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	7	支援終了後すぐには行えなくても、次の日などに振り返りを行うようにしている。	打ち合わせについて「必ず」はできていない。できている時とできていない時がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	2	他の職員が書いた記録を読み、記録のとり方について確認するようにしている。	日々の支援について記録をとることは徹底している。記録のとり方が職員によってばらつきがあり、支援の検証につながらないことがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	6か月ごとに計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	11	0	活動プログラムを決めていく際、「4つの基本活動」を意識して決めていくよう心がけている。	「4つの基本活動」のうち、「地域交流の活動」についての取り組みができていないところもある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	1	特別に自己決定をする力を育てるための支援を行う、というよりも日頃の活動、日常生活の中でこどもが自己選択できるように心がけている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	管理者、児童発達支援管理責任者が出席するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	3	相談員の方や学校の先生方とは連携をとり、一緒に子どものことを考えていく体制ができている。	協力医療機関はあるが、実際に通院したりすることがなく、連携しているといえるのかどうか分からない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12	0	担当者会議や送迎時などに話をし、情報共有を行っている。	年間計画や下校時刻の確認については保護者の方を通じて行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2	できるだけ丁寧に保護者の方から情報を聞くようにしている。	庚午教室の児童発達支援からの移行の方に関しては情報共有できているが、放デイから利用されている方に関しては、保護者の方からの情報に頼ってしまっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	5	移行先に情報提供できるように子どもに関する記録を丁寧に整理している。	開所から今までにこのような事例がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	2	担当者会議などの際に助言をいただいたり、研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	7	できるだけ地域の公園で戶外活動を行うようにしたり、地域の行事に参加するようにしている。	放課後児童クラブと放課後等デイサービスを両方利用しているこどももいるが、現在、交流する機会を持っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	1	自立支援協議会が開催している研修に積極的に参加するようにしてる。	自立支援協議会などへ参加するようにはしているが、全職員が参加できるわけではなく限られた職員の参加になっている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	送迎時に話をする、アプリにて丁寧に様子を伝えるなどし、共通理解を持てるように努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6	ご家族の方がどのような研修の機会を望まれているのか、そのニーズの把握からはじめていく。	研修についての情報提供はおたよりの配布、という形で行っているが、家族支援プログラムや家族などの参加できる研修の機会を設けることはできていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	丁寧に説明するようにしているが、分かりやすい言葉を使用したり、保護者の方の疑問・不安がなくなるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	1	丁寧にアセスメントを行い、こどもや保護者の意思を尊重できるようにしている。今後は面談の機会を設け、より丁寧に思いを汲み取って行けるようにする。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0	「放課後等デイサービス計画」について、必ず保護者の方の同意を得るようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	1	できるだけ丁寧に相談に応じるようにしている。	就労されている保護者の方など、話をする時間の確保が難しいこともある。相談については随時、対応しているが、面談の機会の確保についてできていないところがある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	6	今年度、はじめて親子イベントを開催し、保護者の方向士が交流する機会が少ないながら持つことができた。今後もイベントの開催や研修の機会を設けることによって、交流を図れるようにしていく。	父母の会、保護者会などがなく、保護者の方が交流する機会を設けることができていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	契約時の説明だけでなく、事業所内に体制について掲示したり、子ども達にも分かりやすく説明していくようにする。	保護者の方に対しては苦情があった場合の対応について契約時にご説明させていただいているが、こどもたちには説明できていない。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	個人情報に配慮しながら写真なども載せ通信を発行したり、行事予定も分かりやすくおたよりを配布しお知らせしている。	通信を発行したり、SNS（インスタ）を活用し情報の発信を行っている。HPに関しては現在ご利用の方に関しては有効な発信になっていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	1	鍵付きのキャビネットに入れる、シュレッダーにかけるなど個人情報の取り扱いについては十分に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0	直接話をする、アプリを利用するなど配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6	地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加することで地域の方と触れ合う機会を作っている。	昨年の12月に「おもちゃ広場」という集会所で行っていた行事をやめており、事業所の行事に地域の方が参加する機会がなくなってしまった。どのような行事であれば地域の方が参加しやすいのか、検討課題。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	0	避難訓練実施日に利用していないこどもにも訓練の様子などを伝えるようにしていく。	火災訓練は実施している。そのほかの災害を想定した避難訓練も実施予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	2	引き続き、机上訓練を行う。地域で開催されている研修や訓練にも参加するようにする。	机上訓練しかできていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0	服薬やてんかん発作などについては、アセスメント時に詳しく確認するようしており、職員間で情報共有している。	予防接種の状況については確認していなかった。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	1	現在、医師の指示書が必要なほど重篤な食物アレルギーのこどもはいないが保護者の方から丁寧な聞き取りを行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	2	安全計画を作成し、安全管理の徹底に努めている。色々な場面を想定した訓練を行っている。職員一人一人の安全に関する意識を高めていく。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	1	ご家族の方へ取り組み内容について知っていただけるよう情報を提供、周知していく。	取り組み内容について周知できていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	ヒヤリハットについてはすぐに記録を作成し、全職員に情報共有するようになっている。再発防止についても話し合いを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	職員が外部の研修に参加する機会を作ったり、研修参加後、伝達研修という形で他の職員も勉強する機会を作っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	1	放課後等デイサービス計画に記載するようにしている。		